

課題名：看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション

氏名：井上智子

機関名：東京医科歯科大学

### 1. 研究の背景

我が国における現在の医師主導型の医療提供システムは、自己管理が重要な慢性病の増加、外来・在宅療養への移行や病児保育の未整備など、社会や生活形態の変化に十分に対応し切れていない。Mid-level providerとしての高度実践看護師(Advanced Practice Nurse:APN)は、医師から独立して医療を行う大学院教育を受けた看護師であり、欧米では多くのAPNが人々の健康生活QOL向上に貢献している。我が国には大学院教育を終えた専門看護師(Certified Nurse Specialist: CNS)が既に600名以上活躍しているが、その活躍は現行制度、現行法の範囲にとどまっている。

### 2. 研究の目標

我が国におけるAPNの役割・機能や教育のあり方を3年にわたるフォーラム・シンポジウムで継続して検討し、育成のための教育プログラムを開発する。そして開発されたプログラムで、CNSからAPNへの移行を中心とした教育を実施する。またAPNを核とした、我が国における医療提供システムシステムのあり方を検討、提案する。

### 3. 研究の特色

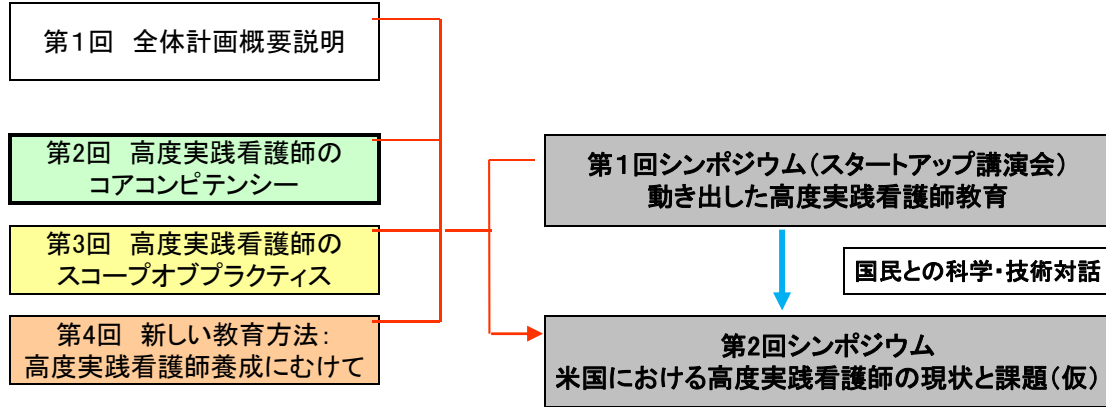
看護は人々の健康問題の「治療と生活」の双方に関わっている。本研究は、多様化する国民の医療ニーズに対応するため、病院、地域、産業などあらゆる場で活躍する看護職の高度化を図ることで、従来にはない生活者の視点からの医療システム構築と産業創出の可能性を探る。またAPN育成では、看護師の役割拡大に際しては職業的アイデンティティの育成も重要視し、看護師が育てる看護専門職を目指す。そのために海外でAPNとして活躍している講師の協力のもとに、web上でのオンライン教育も取り入れて実施する。

### 4. 将来的に期待される効果や応用分野

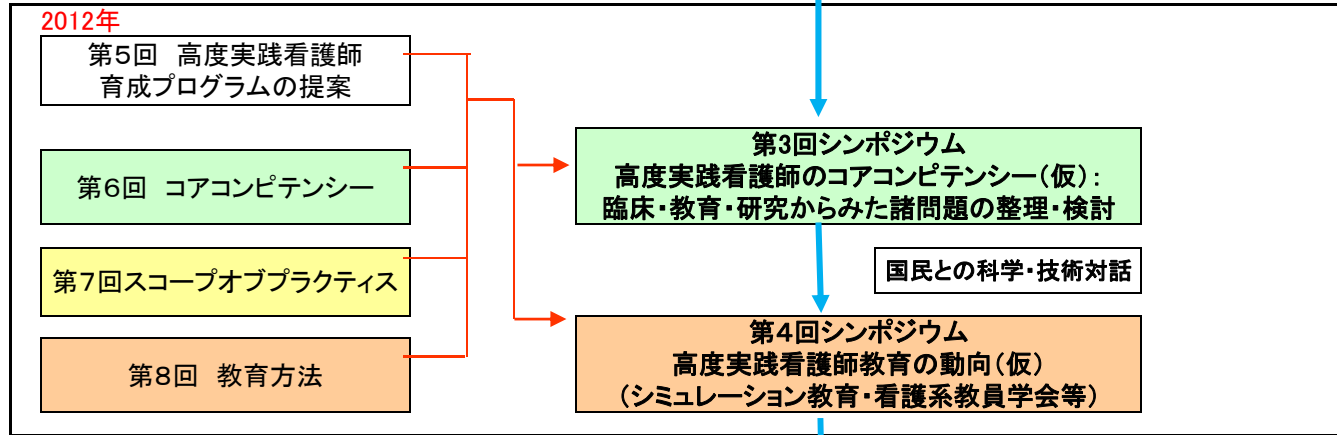
看護師主体の医療により、初期医療へのアクセス向上、医療費削減の効果が期待されるだけでなく、さらなる健康社会の実現につながる。また治療と看護の融合によるケア提供は、生活を重視した医療サービスの提供を可能とする。高度医療施設においても、人々の生活や主体性を尊重した治療・療養生活が推進できる。

# フォーラム・シンポジウム構成 イメージ

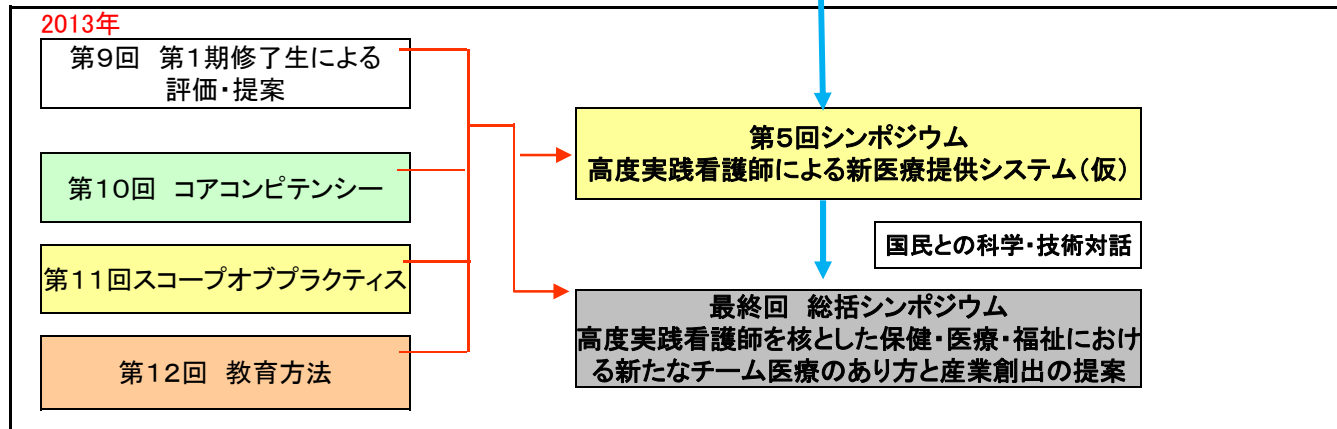
2011年



2012年



2013年



# 高度実践看護師に必要な科目の授業構成案

